

日刊建設工業新聞（2022年5月12日付3面掲載）

【オリコンサルグローバル ホンジュラスで道路橋架け替えコンサル受注】

ホンジュラスで道路橋 架け替えコンサル受注

オリコンサルグローバル

オリエンタルコンサルタンツグローバルは、ホンジュラスで「国道1号線橋梁（グアシロペ橋）架け替え計画」の施工監理と入札支援に関わるコンサルタント業務を受注した。4月28日に同国インフラ交通省と契約を交わした。架け替え後の橋長は約160m。今後は年内に施工者を選定し、契約後2年6カ月程度での完成を予定している。

架設から約80年が経過し、老朽化

が進むグアシロペ橋を架け替える計画。新橋梁は耐候性鋼トラスドラムアーチ橋と、プレストレストコンクリート（PC）箱桁橋を組み合わせた構造。架け替え事業は、中米諸国を連携するパンアメリカンハイウエー（PAH）の安全性確保を目的に日本の無償資金協力で行う。中米運輸交通大臣審議会（COMITRAN）の加盟6カ国（グアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドル、ニカラグア、コスタリカ、パナマ）が連携し、貿易や経済の活性化に寄与する事業としても位置付けられている。

同日、同国テグシガルパで調印式を開いた。インフラ交通省からはマウリシオ・ラモス大臣、マルコ・ペラスケス副大臣らが、オリエンタルコンサルタンツグローバルからは藤熊昌孝執行役員営業本部副本部長兼道路交通事業部担当らが出席した。

インフラ交通省は、昨年発足したシオマラ・カストロ大統領の新政権で新設された行政機関。同事業は同省が発注する初めてのプロジェクトとなる。調印に当たり、マウリシオ大臣は「ホンジュラス発展における歴史的なプロジェクトの調印だ」とコメントした。